

# 北見市における景気動向調査報告書

< 第 I 四半期 >

北見商工会議所

## I. 調査要領

### 1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成22年7月23日

(2) 調査対象期間 平成22年4月～6月期実績および平成22年7月～9月期見通しについて調査した。

### 2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

### 3. 回収状況

業種	企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業		30社	22社	73.3%
建設業		30社	21社	70.0%
卸売業		30社	25社	83.3%
小売業		35社	26社	74.3%
サービス業		25社	15社	60.0%
合計		150社	109社	72.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

## Ⅱ．概 況

### 《 全 体 の 動 き 》

平成22年度第I四半期<4月～6月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」21.1、「悪化企業」48.6、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△27.5となっています。このD・I値を、前年同期（△40.6）と比較してみると13.1ポイントの回復傾向を示しています。また前期調査<21年度第IV四半期>との比較では、前回△22.9→今回△27.5と4.6ポイントの悪化傾向を示しました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△22.7、建設業D・I値△61.9、卸売業D・I値△20.0、小売業D・I値△34.7、サービス業D・I値△53.4となっており、前年同期調査と比較すると建設業で11.9ポイント、サービス業で9.6ポイント悪化しているものの、他の業種では回復傾向を示しました。特に製造業では22.8ポイントの大きな回復となっています。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」11.9%「悪化企業」51.4%でD・I値△39.5と、前年同期見通し（△51.7）に比べ12.2ポイント回復傾向を示しているものの、D・I値は未だマイナスであり、予断を許さない来期見通しとなっています。

### 《 業 種 別 の 動 き 》

#### 1) 製 造 業

##### 生 産 高

前年比で「増加企業」18.2%、「減少企業」40.9%、D・I値△22.7と前年同期に比べ9.2ポイントの回復傾向を示しています。前期調査との比較では4.5ポイントの悪化傾向を示しています。

##### 採 算

前年比で「好転企業」13.6%、「悪化企業」50.0%、D・I値△36.4と、前年同期に比べ9.0ポイントの回復傾向を示しています。

##### 来期見通し

業況D・I値△36.4、生産高D・I値△31.9、資金繰りD・I値△31.9と、全て回復傾向にあります。特に業況、資金繰りでは13ポイントを超える大幅な改善となりました。

#### 2) 建 設 業

##### 完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」9.5%、「減少企業」71.4%、D・I値△61.9と前年同期に比べ19.1ポイントの悪化傾向を示しており、大変厳しい状況が伺える結果となりました。

##### 採 算

前年比で「好転企業」9.5%、「悪化企業」71.4%、D・I値△61.9と前年同期に比べて5.9ポイントの好転を示していますが、悪化企業値は未だに高い状況となっています。

来期見通し 業況D・I値△57.2、完成工事高D・I値△57.2、資金繰りD・I値△42.9と完成工事高がほぼ横ばいで推移しているものの業況で21.4ポイント、資金繰りで16.4ポイントの大幅な改善を示しました。

### 3) 卸売業

売上高 前年比で「増加企業」32.0%、「減少企業」28.0%、D・I値4.0と前年同期と比べ23.2ポイントの大幅な回復となり、D・I値がマイナスからプラスに転じる結果となりました。

採算 前期比で「好転企業」32.0%、「悪化企業」32.0%、D・I値0と前年同期に比べ15.5ポイント改善傾向を示しています。

来期見通し 業況D・I値△28.0、売上高D・I値△20.0、資金繰りD・I値△16.0と、前年同期と比べ全て回復傾向を示しており、予断は許さないものの好転の兆しが伺える来期見通しとなっています。

### 4) 小売業

売上高 前年比で「増加企業」15.4%「減少企業」42.3%、D・I値△26.9と前年同期に比べ10.6ポイント回復傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」15.4%「悪化企業」42.3%、D・I値△26.9と前年同期に比べ23.0ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△23.1、売上高D・I値△26.9、資金繰りD・I値△15.4と前年同期と比べ全てのD・I値が好転傾向を示しました。特に売上高で10.5ポイント、資金繰りでは28.1ポイントの大幅な好転傾向を示しました。

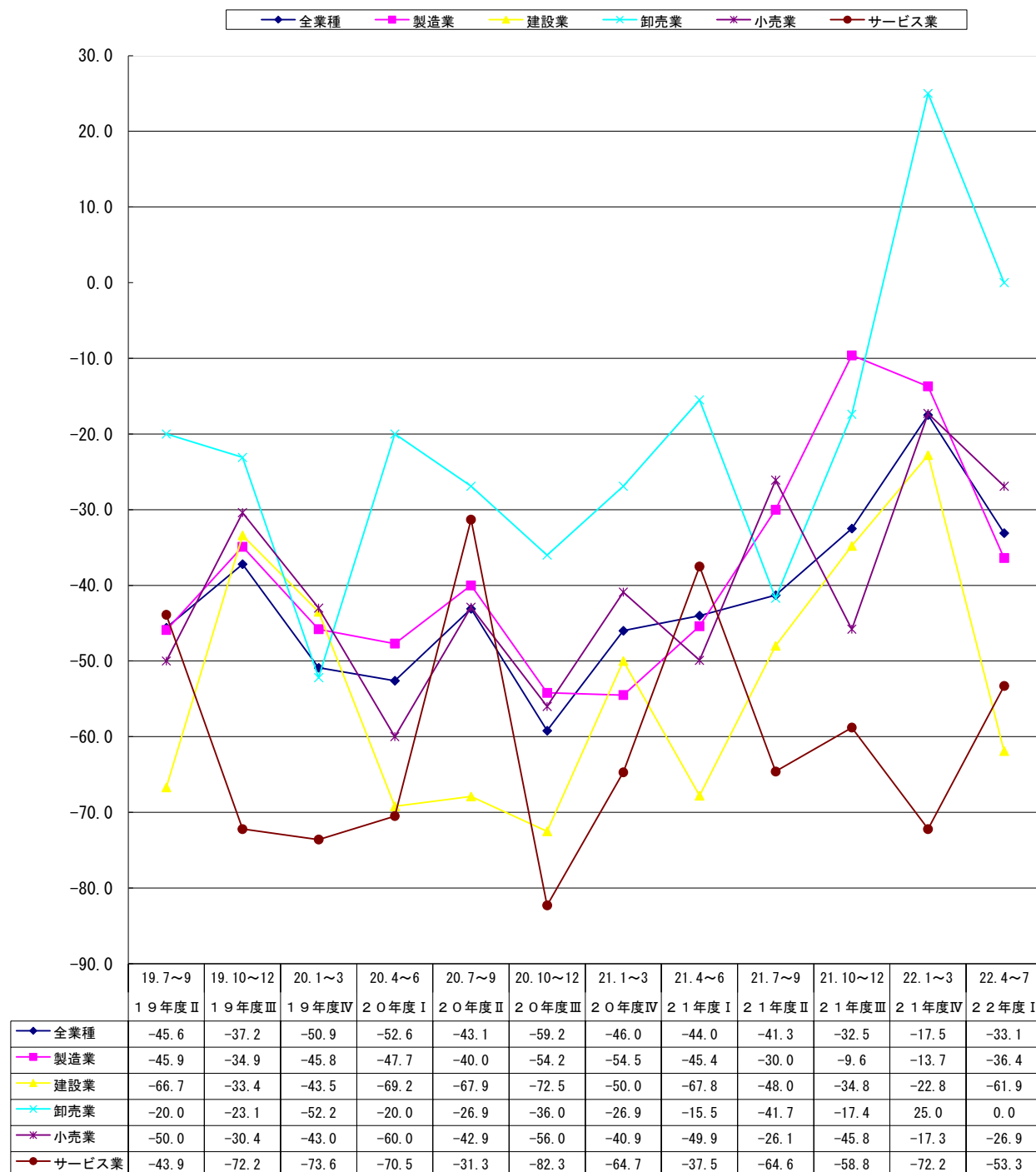
### 5) サービス業

売上高 前年比で「増加企業」20.0%、「減少企業」66.7%、D・I値△46.7と前年同期に比べ3.3ポイント好転と、若干ですが好転傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」6.7%、「悪化企業」60.0%、D・I値△53.3と前年同期に比べ15.8ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△66.6、売上高D・I値△60.1、資金繰りD・I値△33.4と、前年同期に比べ業況のみ悪化傾向にあるものの、売上高は2.5ポイントと若干の好転、資金繰りは16.6ポイントの大幅な好転となっています。

今期の採算（前年同期比）



## 業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 件 費 増	人 材 不 足
建 設 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足
卸 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	売掛金回収難
サービス業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
合 計	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○ 前年同期と比較すると全体的に「得意先減少」、「人材不足」の増加が目立ち、「同業者間の競合」「諸経費増」は減少となっている。特に「人材不足」については各業種で増加を見せ、全業種5位以内に入る結果となった。

また、製造業を除く全業種で1、2、3位の結果が同じとなっており、これらの問題点は各業界はもちろん、地域企業全体の経営課題になっていることが伺える。

### ※その他及び具体的な問題点の記載事項

(建設) ○公共事業削減。(土木)

○不況による工事物件の減少。(板金)

(卸売) ○仕入価格の上昇が予定されている住宅着工が低調。(鉄鋼)

○仕入価格が安定しない。(値上げをしても売価に転嫁できず、値下げをすれば原価割れしてしまう。)(鉄鋼)

(小売) ○土・日の客足減少。(画材)

## 業況

重複回答を特記すると、建設業は土木・建築、電気、管土木が悪化。卸売業は事務用品好転。サービス業はクリーニング業の悪化が続いている。

製造業 ⇒ 好転（重複該当なし、農業機械用金属製品、建設用金属製品、一般機械）  
悪化（重複該当なし、食料品、木材、木製品）

建設業 ⇒ 好転（重複該当なし、舗装・一般土木）  
悪化（土木建築、電気、管土木、内線工事、とび土木、土木、塗装、板金、  
管工事・冷暖房）

卸売業 ⇒ 好転（事務用品、青果、厨房用機械器具、自動車部品）  
悪化（なし）

小売業 ⇒ 好転（重複該当なし、自動車）  
悪化（重複該当なし、衣料品、書籍、時計）

サービス業 ⇒ 好転（重複該当なし、IT）  
悪化（クリーニング、ホテル（宿泊）、飲食、建物清掃、理容、清掃用具賃貸）